

# れんけい

第32号

平成28年12月  
発行

地方独立行政法人  
岐阜県総合医療センター  
Gifu Prefectural General Medical Center  
地域医療連携センター



## 高度急性期から慢性期医療にわたる 栄養治療連携について

主任部長 兼 内科部長、栄養センター部長、循環器内科主任医長  
**飯田 真美**

メタボリックシンドロームや糖尿病、脂質異常症などの過栄養から、高齢化社会を反映してフレイルやサルコペニアなどをきたす低栄養が、医療の現場で問題となっています。また、外科的治療における術前から術後にかけての周術期栄養管理や、がん化学療法における食欲不振や低栄養など、多くの病態や疾患の予防・治療を行っていくにあたって「栄養改善」の重要性が増しています。高齢者や脳卒中後の状態では、嚥下機能面から食事形態を含めた「食・栄養管理」も必要です。

当センターでは、病診連携でご紹介いただいた多くの患者さんの治療にあたり、さまざまな病態に応じた適切な栄養治療に取り組んでいます。エビデンスに基づく栄養治療の実践を目的に医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、言語聴覚士などからなる栄養サポートチーム（NST）が、各診療科からコンサルテーションを受け、早期退院や社会復帰への援助を行うべく入院患者さんの栄養状態の維持や改善をサポートする活動をしています。多くの併存疾患があり、栄養・代謝の状態も非常に複雑な患者さんも増えており、個人ごとに適切な栄養療法を提案し、実践してい

くことが、疾病予防や治療、再発予防を可能にし、患者さんのQOLを改善することに繋がると考えられます。入院・外来を通して必要な栄養指導なども行っていますが、フォローいただく諸先生方と栄養治療についても情報を共有して連携することが欠かせないものと考えています。

一方、過栄養の問題に関しては、脂質異常症は動脈硬化性疾患のリスク因子として多くの治療対象者がいます。中には家族性高コレステロール血症（FH）をはじめ複雑な原発性高脂血症の方もおられ、治療に難渋する症例もあります。FHは若年から冠動脈疾患を発症するリスクが極めて高く、適切な治療が必要な病態であり、以前に考えられていたより稀でない遺伝性疾患であることがわかってきました。当センターは日本動脈硬化学会のFHの診療可能施設に登録されています。病診連携でご協力いただき、FHの早期診断・治療を行い、岐阜県の早発性冠動脈疾患減少に取り組んでまいりたいと思っています。FHの疑いのある方がおられましたらご紹介いただければ幸いです。

諸先生方と密に連携して、よりよい医療を提供して参りたいと考えておりますので、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

## 連携医の紹介

## 奥野医院

院長 奥野 正隆



当地で50余年開業しておりました先代(母)の急逝に伴い、H20年から当地で開院させて頂いております。十分な準備期間もないままの開院でしたので、当初は患者さまにご迷惑をお掛け致すこともありました。皆さまの温かいご理解や、県総合医療センターさんを始めとする2次救急病院の先生方のご支援、地元医師会の先生方ご指導を頂き、何とか今までやって来られました。改めて厚くお礼を申し上げます。

小院のモットーは、「こんな症状があり何処に行けば良いか分からないけど、先ずはあそこに行けばその後の手はずをしっかりとってくれる」と患者さまに思ってもらえる診療所であることです。皆さまから気軽に何でもご相談頂ける存在でありたいと願っております。受診頂いた後に、小院での対応が難しいと判断された場合には、最も適切で信頼できる2次病院へのタイムリーなご紹介を心掛けております。県総合医療センターさんには日々とてもお世話になり、迅速・的確なご対応を頂ける心強い存在です。私事ではありますが、永く大学病院に勤務させて頂き、多くの基幹病院の先生方とお知り合いになれたことは大きな力となっております。



当院では処置を安全・確実に行うため、「二重の確認」を徹底しています。つきましては、準備に若干の時間を要することがあります。

より安全に、よりお待たせする時間を短縮するためにも、お呼びするまで待合室・廊下の椅子でお待ち願います。

皆さまのご協力に感謝申し上げます。

院内の診療では、院長はもとより職員全員がおひとりおひとりのお話をしっかり伺い、敬意を持った対応に心掛けております。でも、たとえ親しくなったとはいえ、気が緩みミスがあっては決してなりません。常に2名以上の事務・看護職員がお一人ずつの患者さまへのご対応を確認し合い、カルテに一つずつの処置についての責任者記録を残しています。

また、当地でも患者さまの高齢化が進んでおります。お体の具合が悪くご来院頂けない方には、なるべくフットワーク軽く診療時間の合間に訪問診療を行うよう心掛けております。毎日自転車や車での往診をさせて頂いております。小生には、往診の申し出をご遠慮された為お亡くなりになってから発見されたとても苦い患者さまの経験があります。「先生、ありがとう。大丈夫」と云うそのお言葉が、今でも耳に残っています。

出来ることはわかですが、出来る限りの診療で少しでも患者さまの安心、安全に取り組んでまいります。

名称	奥野医院
医師	院長 奥野正隆
住所	〒504-0835 各務原市那加雄飛ヶ丘17
TEL	(058) 382-6165
FAX	(058) 382-6164
診療科	内科 小児科
診療時間	平日 午前8:30~12:00 午後4:00~ 7:00 土曜日 午前8:30~12:00 午後2:00~ 5:00
受付時間	診療時間と同じ
休診日	日曜・祝日
駐車場	16台

## 診療科の紹介

### 外科

外科部長 河合 雅彦

現在、食道がん・胃がんなどの上部消化管領域は長尾消化器外科部長、大腸がんなど下部消化管領域は田中大腸外科部長、肝がん・膵臓がんなどの肝胆膵外科領域は私と仁田救急外科部長を中心に國枝副院長以下医師13名で外科の診療を行っております。また、乳腺外科は長尾育子部長以下2名、小児外科は加藤禎洋部長が独立して診療を行っており、若手の外科医がお手伝いをしております。2015年の手術件数は外科1,030例（うち全身麻酔740例）、乳腺外科158例、小児外科125例と3科合わせて1,312例に達しており、外科単独で初めて1,000例を超えました。その中でも内視鏡外科手術は年々増加を続けており、2015年は腹腔鏡下胃切除54例、胸腔鏡下食道切除9例、腹腔鏡下大腸切除85例など、合計336例に達しております。これもひとえに近隣の諸先生方か

らの貴重な症例のご紹介を当科ならびに消化器内科にいただいているおかげと思っております。高齢化社会を迎え、リスクのある患者さんが増えてきている現在、病診連携をますます強化して術後も基礎疾患のご加療や化学療法施行時のご支援など皆様方のご助力が必要と考えますので今後ともよろしくお願い申し上げます。



### 神経内科

神経内科部長 西田 浩

神経内科は4名（全員神経学会専門医）で診療を行っています。神経内科は、脳梗塞等の脳血管障害、パーキンソン病やアルツハイマー型認知症等の神経変性疾患、重症筋無力症等の筋疾患、ギランバレー症候群等の末梢神経疾患、多発性硬化症等の脱髄疾患等を担当しています。当院は急性期病院のため急性期脳梗塞の患者さんが多く、当科も脳卒中センターの一員として急性期脳梗塞治療を行っています。神経診察、リハビリテーション、各種検査を総合的に行い脳梗塞診療の質の向上に努めています。また、他の疾患についても、神経診察とMRIやRI（脳血流シンチ、MIBGシンチ、DATシンチ）等の検査を組み合わせ、早期診断・早期治療に取り組んでいます。高齢化社会を反映し今後神経内科疾患が増加することが予想されま

す。運動機能障害、認知機能障害等神経疾患を疑う症状がありましたらご紹介をお願い致します。今後も地域の先生方と医療連携を密にとり、よりよい医療を目指していきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。



## Topics

## 岐阜県総合医療センター健康祭2016の報告

総合リハビリセンター長  
谷島 進太郎

市民参加イベント『健康祭2016』を平成28年11月12日(土)11:00～15:30に病院1階エントランスホール、3階講堂、大会議室と中会議室の4会場にて開催しました。

今年は、体を動かすという市民の皆さまに身近な「運動」をテーマとして、「健康と運動」について①知って元気になろう!講演会、②測って元気になろう!体験コーナー、③聴いて元気になろう!音楽会を催しました。どの会場も盛況で400名を超える多くの市民が参加され、先着100名様スタンプラリーもあっという間に終了しました。



滝谷博志院長の挨拶にて健康祭2016が開会し、講演会会場では、新企画 特別講演「運動と健康について」飛

騨保健所長 久保田芳則先生によるお話をいただきました。他、毎年恒例のミニレクチャーを当センター医師により「感染症にかからない体づくり」「慢性腎不全と運動療法」「高血圧症と運動」「皮膚にとって良いこと避けること」「慢性呼吸不全と運動療法」「ロコモ体操のススメ(笑顔で長生き)」6題のお話をいただきました。

市民の皆さまからの活発なご質問でプログラムが押すほどの反響でした。



体験会場では、相談指導コーナーにておくり相談、栄養食事相談、介護指導、母乳育児相談や歯周病チェックを行いました。また測定コーナーにて血管年齢、骨密度、体組成、ロコモチェックなどの健康測定を行い、体験コーナーでは新企画 ヨーガ体験でリラックスを行いました。指導相談会や健康測定では相談や各種検査測定結果を担当スタッフから真剣に聞き入っておられ、列が一日中並んでおり、来場の皆さまにはご迷惑をおかけしました。ヨーガ体験会でも会場定数以上の参加者をお迎えすることが出来ました。どのコーナーも多くの市民の来場を得て盛況でした。



音楽会会場では、吹奏楽2団体と和太鼓による音楽会を催しました。病院1階エントランス

ホールの座席が足りないほどのご来場を頂きました。

病院スタッフ一丸となって企画運営に取り組んだ健康祭に、多くの市民の皆さまに関心を持っていただき大変有難く存じます。今後も市民の皆さまに楽しんでいただき、多くのサービスを提供できる健康祭を目指していきたいと思ひます。

## Topics

## すこやか棟CT装置

中央放射線部技師長兼核医学診療センター技師長  
白田 繁夫

当院は平成28年3月より、最新鋭のCT装置 SOMATOM Definition Flash(シーメンス社製)を導入しました。この装置の特徴は、広範囲を短時間で撮影できる技術があることです。1秒間で43cmの範囲を超高速度撮影ができることで、息止めや静止が難しい小児や高齢者を撮影する際にも良好な画像が得られるようになりました。例えば、成人胸部全体のスキャンを0.6秒程度で撮影可能です。また、心臓の検査も今まで撮影できなかった高心拍な患者様でも良好な画像が提供できるようになりました。



CT検査場面

CT検査の懸念課題である放射線被ばく対策として、更なる低被ばく撮影を実現する次世代の検出器や、逐次近似画像再構成法SAFIREを搭載しております。これにより今まで実現できなかった低被ばく撮影が可能となりました。

この最新鋭CT装置の性能をより活かすためにX線CT認定技師(日本X線CT専門技師認定機構)も配置しております。『患者様に優しい』CT検査ができるようにスタッフ一同、頑張りますので宜しくお願いします。



すこやか棟CT検査室スタッフ

## Topics

## 新生児医療センターの改修工事が完了しました

新生児医療センター長  
河野 芳功

昨年12月より行っておりました新生児医療センターの全面改修工事が、このほど完了しましたので、ご紹介させていただきます。

当院の新生児医療センターは、NICU12床、GCU28床あわせて40床ですが、これまで非常に手狭で、関係機関から改善の必要性を指摘されておりました。今回の改修工事により、NICUとGCUはそれぞれ約1.4倍と1.5倍に面積を広げることができました。NICUにおいてはシーリングペンダントをアーム式のものに更新し、レイアウトの自由度が向上しましたし、GCUにおいては、ゆとりある環境を提供できるようになりました。また、電球色のLED間接照明を病棟全体に取り入れ、赤ちゃんたちの光環境にも配慮をしています。

改修工事中も新生児医療センターの機能を止めないよう工夫をしておりましたが入院制限をせざるを得ず、各医療機関の先生方には多大なご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げ

ます。リフレッシュされた新生児医療センターにおいて、一人でも多くの赤ちゃんの命を守ること、そして「赤ちゃんにやさしい病院」の名に恥じないよう一層努力していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。



新任部長の挨拶・抱負



麻酔科部長  
山本 拓巳

日本麻酔科学会 指導医・専門医  
日本集中治療医学会 専門医  
日本呼吸療法医学会 専門医  
インフェクションコントロールドクター

平成28年7月より麻酔科部長として赴任いたしました。現在の麻酔科医に求められるのは手術中の麻酔管理だけでなく、術前・術後を含めた周術期管理を担う周術期チームの中核としての役割です。当院でも増え続ける麻酔管理症例の中から、適切に高リスク患者群を抽出し、術中はもちろん術後の集中治療室においても、安全で質の高い管理を提供していくことが地域医療への貢献につながると考えます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

チームの紹介

退院サポート部

当院は平成28年度診療報酬改定で新設された「退院支援加算1」を算定しています。

退院支援業務は、患者さんに安心して退院していただくためにも、急性期病院として入院が必要な患者さんのためのベッドを確保するためにも、地域の医療機関や介護サービス事業所等の皆様と顔のみえる連携を図るためにも大切な業務となっています。

1.退院サポート部の体制

- ①平成28年4月に「退院調整室(主に転院支援)」と「自宅退院サポートセンター(主に在宅での療養生活支援)」を統合し「退院サポート部」を新設しました。
- ②職員は14人で、昨年度より2人増員し、退院支援加算1の要件である「1人が2病棟を担当」する体制としました。

治療やケアのスペシャリストである看護師と、患者さんの希望に沿って社会資源を活用するコーディネーター力をもつMSWが協同して退院を支援しています。

退院サポート部の職員体制(平成28年12月現在) (人)

担当	看護師	MSW	事務職	合計
総括		1		1
退院支援部門(専従)		1		1
退院支援部門(専任)	1			1
病棟退院支援職員	1	6		7
がん相談支援センター(専従)		1		1
がん相談支援センター(専任)	1			1
事務補助・医療通訳			2	2
合計	3	9	2	14

退院サポート部部長 熊谷 守雄

退院サポート部副部長 MSW 武山 修

2.退院支援職員の役割 ~患者さんの支援~

- ①入院3日以内には退院困難患者さんを抽出。
- ②入院7日以内には退院困難患者さんや家族と病状や退院後の生活について話し合い。
- ③入院7日以内には病棟看護師、退院支援部門の看護師・MSWでカンファレンスを開催。

上記の①②③は退院支援加算1の算定要件となっています。入院早期より退院支援を始めることが求められています。

3.退院支援職員の役割 ~地域の医療機関・介護サービス事業所等との連携~

- ①医療機関・介護サービス事業所等と転院・退院体制について情報の共有等を行う。

退院支援加算1の要件として20以上の医療機関等との年3回以上の面会が必要です。



患者さんが安心・納得して早期に住み慣れた地域で療養や生活ができるように更なる退院支援体制の充実を図り、地域の関係機関の皆様との顔のみえる連携を推進して行きたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

## 診療科の連携

## 肝疾患の診療における内科・外科連携 消化器内科部長 杉原 潤一

近年の抗ウイルス薬の進歩により、ウイルス肝炎の治療成績は飛躍的に向上しました。しかしC型肝炎ウイルスが駆除されても、肝臓癌発症のリスクはゼロにはなりませんので、定期的な経過観察が重要です。杉山さんの場合は、インターフェロン治療でC型肝炎ウイルスが駆除されてからも約9年間にわたり、3カ月に1回の定期的な経過観察を確実に継続されてきた

ことが今回の肝臓癌の早期発見につながったと思います。さらに当センターでは、肝臓癌の治療でも従来から消化器内科と外科の間で密な連携を保ってきており、今回も難しい手術を速やかに施行していただきました。杉山さんは、手術後も以前のように元気になられています。現在は外科からまた消化器内科に戻り定期的な経過観察を継続されています。

## 患者さんの声



## 肝臓がん手術にあたり

杉山 紀美子

35年ほど前から県病院の清水先生（後に病院長）に診断をうけるために3カ月に1度通院しておりました。平成18年にペグインターフェロンの注射とリバビリンの服用で、完治する可能性があるからと勧められ、その年の7月から治療を始め平成20年1月まで続けました。（平成19年4月から杉原先生が主治医）治療の結果ウイルスは完全に除去できたと先生からお話を受けました。ところが、平成27年6月から腫瘍マーカーが上がり始め11月には394となり、癌が発病しているのが11月から12月にかけて、MR、CT、胃、肺、心臓、その他検査に10日ほど通院しました。病名は肝細胞がんと宣告され、正月明けに手術日を電話でお知らせしますとのことでした。

12月24日入院前の診察があり執刀医の仁田先生から病名、手術方法についての説明がありました。病名の肝細胞がんの発生しているところが肝臓の一番奥で足からもどる太い血管に接して、血管を圧迫しており手術が難しく万全の期すため、心臓血管外科の先生、人工肺の先生も加わって手術チームで対応しますから安心して下さいと説明がありました。

正月は、気分は穏やかではありませんでしたが4日午後県医療センターから13日入院15日手術と決まりましたと電話がありました。

13日入院、14日執刀医の仁田先生、畑中先生から手術箇所、手術の手順、手術体制など説明を受けました。主治医の杉原先生も病室に來られ手術の成功を祈っていますよと励ましの言葉をかけていただきました。

15日の手術は9時に手術室へ入り、午後2時に部屋に戻ることができました。手術は成功しましたよと仁田先生からお話があり切除した肝臓と、胆のうを見せていただきました。

肝臓がんの手術を受けて思うことは、3カ月に一度杉原先生の診察を受け各種検査の数値の変化を診ていただいていることが幸いでした。最後にgod handを持つ仁田先生に深く感謝申し上げます。

今後は、再発しないことを願うのみであります。

## 救急外科部長・外科主任医長 仁田 豊生

とても嬉しい投稿を頂き有り難うございます。我々外科医の仕事は治癒を妨げている「悪いもの」を取り除いて、回復していく患者さんが途中でつまづかないように注意深く手助けをすることです。人間の治癒能力に感謝しつつ日々診療に取り組んでおります。今回は下大静脈に浸潤が疑われる腫瘍に対して、下大静脈の遮断や体外循環を想定した体制で手術に臨みました。幸い体外循環を用いること無く手術は終了し経過良好で退院されたのは何よりでした。近年、肝臓癌に対する治療において抗ウイルス薬やラジオ波など内科的治療が素晴らしく進歩している一方で、肝臓外科手術も手技やデバイスの進歩によってより出血が少なく安全にできるようになってきています。ここ数年当院は、肝胆膵高難易度手術が年間30例を上回っており、肝臓内科医と緊密に連携して可能な限り当院で手術を受けて頂くよう努力していく所存です。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

# 地域医療連携センターからのお知らせ

## 紹介状なしでの初診について

当センターでは、紹介状を持参されない患者さんにご負担いただく初診に関する費用（保険外併用療養費）を、今年4月から5,400円に改定しております。

それまで60%台だった当センターの紹介率は、本改定以降70%台に上昇しており、これは、地域医療連携の趣旨である、日頃の健康や病状の管理はかかりつけの医療機関で、特別な検査・治療が必要な場合は当センターでという役割分担が、医療機関のみならず、患者さんにもより認識されてきたものと考えております。

患者さんの様態に応じた最適な医療サービスを提供するため、当センターは逆紹介を一層推進してまいりますので、当センターを受診希望の患者さんへの紹介状作成についてご配慮いただきますようお願いいたします。

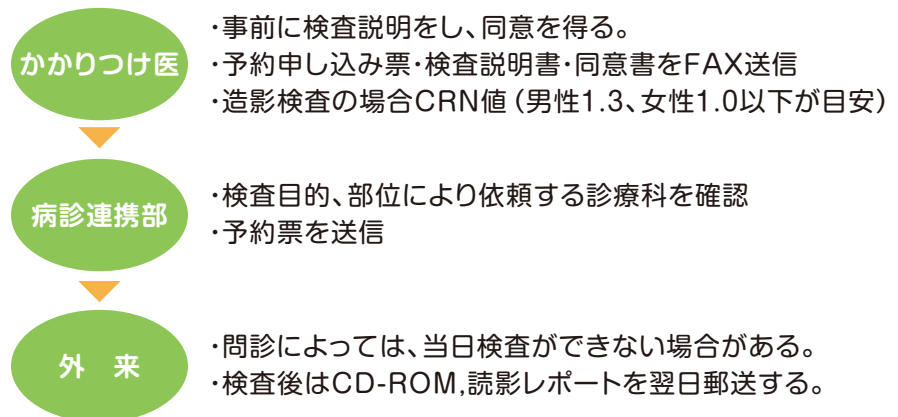


## 造影CT・単純・造影MR検査依頼について

造影検査の場合は、CRN値を参考に患者さんに検査説明、同意をいただいた後、放射線診断科への依頼ではなく、該当する診療科に予約申し込み、検査目的を診療情報提供していただきます。

病診連携部にて、予約をお取りし、予約票を返信させていただきますが、当日診療科での問診により、検査できない場合があることをご了承していただくよう説明していただければ幸いです。

### ■造影CT、単純、造影MRI検査予約手順



## 救急外来受診患者の対応について

### 救急外来受診患者

時間内・時間外問わず、  
救急外来受診患者に対しては

救急外来で対応しています。  
連絡先は (058) 246-1111 救命センターへ

なお当該患者の診療情報提供書はFAX(058)240-0013をお願いいたします。

## 時間外のFAXによる外来診療予約について

### 時間外のFAXによる外来診療予約

平日 17:30～20:00 病診連携室で対応しています。

土曜日 9:00～13:00 TEL(058)249-0017 FAX(058)248-9334



### 編集後記

岐阜県総合医療センター地域医療連携広報誌 第32号をお届けします。病診連携に向けて、先生方に少しでもお役に立てる紙面を目指しています。ご意見、ご要望がございましたらお寄せください。お待ちしております。



地方独立行政法人  
岐阜県総合医療センター

〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号

地域医療連携センター直通 TEL(058)249-0017

FAX(058)248-9334

発行/岐阜県総合医療センター地域医療連携センター